

第6回 ニッケピュアハート エッセー大賞

< 中学の部 優秀賞 >

「友達の大切さ」

李鑫穎

私が、中学校一年生の時、自分にとって全く知らない世界、日本に来ました。入学した時、みんなは私が中国人だと知り、たくさんの方が声をかけてくれました。友達もすぐにでき、学校生活に慣れてきました。しかし、自分の日本語力が足りないせいで、なかなか自分の言いたいことが伝えられず、友達との間の会話もあまりはずまずに、もどかしい思いをしました。そして、できた友達もだんだん自分の周りから離れていったのです。その時の私は「自分は外国人だし、日本語もちょっとしか話せられないから、仲の良い友達ができるはずない。友達なんかいなくても大丈夫だ。」と思うようになりました。また、学校の授業の内容も分からなくなり、勉強の面もうまくいきませんでした。本音を話せる友達がいないので、何もうまくいかない自分がとても嫌になっていました。毎日の学校生活に辛い事や悩みがたくさん増えてきたのです。

そのまま二年生になり、新しいクラスになりました。しかし、クラスの中には知らない人ばかりだったのです。そして、みんながすぐに仲良くなるのを見て、とても羨しく思いました。それから、私は自分を変えようと頑張っている人々に話かけてみたりしました。そして、やっと自分に合う友達を見つけました。最初、すぐには仲良くなれなかったけど、修学旅行などの学校行事を通して、私にもとても大切だと思える友達ことができました。

友達に悩みを相談したり、一緒に勉強をしたり、遊んだり、学校生活は言葉で表現できないほど楽しかったです。仲の良い友達がいると、自分の生活がこんなにも楽しくなれることに気づきました。私にとって友達とは、悲しい時、いつも支えてくれる、嬉しい時には、一緒に喜んでくれる、とても大切な存在です。